

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第2回 「那須平成の森の自然 春・初夏」

那須平成の森の自然、中でも代表的な動物と言え、ツキノワグマ（私も6月に出くわしたばかりです）。他にも多種多様な生物が暮らしています。そして、それらを包み込むように広がる560haの広葉樹林。今号と次号では、この森の豊かな自然を、植物を中心に、ご紹介しましょう。



▲フクロウ



▲マンサク

長い冬が終わり、残雪が残る4月。フクロウがゴロスケホーと鳴く森の中で、一番に咲く花は、マンサク。「まんず、さく」と言われるように、「まず、咲く」。次に、オオカメノキ、セリバオウレン、シヨウジョウバカマ、カタクリと続いていきます。スマレの仲間たちが咲く頃には新緑が始まり薄黄緑色から、日に日に緑の色が変化していく様は、命の勢いを感じさせてくれます。この5月の上旬から中旬は個人的に好きな季節でもあります。

◀ツチアケビ



▲天然記念物ヤマメ

5月中旬から6月初めにかけては、ツツジ一色。オオルリなど夏鳥たちのさえずりも盛んになり暑くなるとエゾハルゼミの大合唱も始まります。オオヤマザクラは彼らの陰にひっそり、しかし華やかに咲き誇ります。天然記念物の動物ヤマメもようやく冬眠から目覚めます。生命に満ち溢れるというのは、まさにこの頃のことを言うようです。

6月に入ると、今まで賑やかだった森も物静かに。やがて梅雨へ。地面に目を落とすと、別名ユウレイタケと呼ばれるギンリョウソウがひっそりと。他にも、オニノヤガラ、ツチアケビという森が豊かでないと思えない腐生植物（菌寄生植物）も存在感を見せまします。霧の中で鳴り響くキツツキたちのドラミング（くちばしで木を



▲モリアオガエル

たたく音）も幻想的です。花は、ヤマボウシ、ガマズミ、カマツカ、ノイバラ、梅雨らしくコアジサイ、エゾアジサイもモリアオガエルの声をBGMに雨に濡れています。森の清水ではハコネサンショウウオも。梅雨明けまであとわずかです。多くの植物たちに抱かれながら、さまざまな生き物たちがつながり合って生きている。これが那須平成の森なのです。
※今回ご紹介した植物は、標高800mから1,200m付近で見られるものです。
那須平成の森フィールドセンター
センター長 若林正浩

かつこう

7月に入り、新型コロナウィルス感染症の全国的な広がりが見られるようになると、県外に住む方からの遠慮がちな問い合わせが増えました。

ある男性は、「病院から面会ができるようになったと連絡を受けたので、母の見舞いに行きたいが、ご迷惑にならないでしょうか」と言います。

こんにちは **赤ちゃん**

令和元年8月29日生

るあ **渡邊 琉空**くん (松沼)

父 圭介さん
母 香葉さん

琉空くんは…
いつもニコニコ笑顔。これからもその笑顔でみんなを癒してね♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (7月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比	・世帯数	10,404世帯 (+5)
	・人口	24,868人 (-40)
		男 12,359人(-20) 女 12,509人(-20)

あなたの「声」をきかせてください
地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。

県内の感染状況などを説明したあと、お住いの都道府県の自粛要請や協力依頼の内容も確認の上判断されるようお願いし、電話を切りました。

那須を訪れる方の事情はさまざまであることを改めて感じると同時に、家族の見舞いもままならない状況に胸が痛みました。感染拡大が一刻も早く終息に向かうよう、職場で、家庭で、いま一度気を引き締めて感染予防に努めたいと思います。⑩

「かけっこがはやくなりますように」「サッカーせんしゅになりたい」「バスのうんてんしゅになりたい」「かぶとむしがとれますように」「ちいさいこにやさしくなりたい」。七夕で子どもたちが心を込めて書いた願い事(21頁)。短冊に、目標や夢に向かう決意が表れていました。「空からみてる」(たなばたさまの歌)。織姫と彦星も、きつと子どもたちの成長を見守り、応援しています。⑪